

精神科ソーシャルワーカー機能評価調査票

記入の仕方： 1)に設けた□部分の中で、内容が満たされているものにチェック（し）を入れてください。

① 次に、□の全てに（し）がついた場合は1)、一部の場合は2)、全くつかない場合は3)に○をして下さい（一部の項目には2)がありません）。

② 一部の項目には、別紙に解説をつけていますのでご参照下さい。

注) ここでいう「利用者」には、クライアント(当事者)だけでなく、家族なども含めています

A. 適切なケアの提供に関する指標				
【アクセス】				
1	PSWの部屋は、事務部門とは別になっている	1) <input type="checkbox"/> 事務部門から独立した部屋で、相談援助、及び関係する事務を行っている	3)	同じ部屋である
2	相談室は、利用者の行きやすい場所に位置している	1) <input type="checkbox"/> 相談室は、簡単に行ける場所にある。または、相談室内を見れば、簡単に行ける	3)	あてはまらない
3	相談室は、利用者、来談者などが気兼ねなく出入りできる場所にある	1) <input type="checkbox"/> 相談室は、他の職員の目を気にしないで出入りできる場所にある	3)	あてはまらない
4	相談室内は、利用者が病院玄関に入ると目にはいりやすい位置に掲示されている	1) <input type="checkbox"/> PSWの業務内容等の掲示は、病院内来など、利用者の目に入るところにある <input type="checkbox"/> 相談室の案内は、わかりやすく掲示してある	2) 左の一部があてはまる 3) あてはまらない	あてはまらない
5	PSWは、入院者に自分が何をすべきかを伝えている	1) <input type="checkbox"/> 入院者に自己紹介を行い、業務を分かりやすく説明している <input type="checkbox"/> 病院内で積極的に業務の周知に努めている(業務案内、パンフレットの作成、広報誌の発行など) <input type="checkbox"/> 病院が発行する便りなどで、社会資源に関する情報(制度、当事者活動、家族会活動など)を提供している	2) 左の一部を行う 3) 特にしていない	特にしていない

B. 利用者の権利を守ることに関する指標			
【利用者との関係】			
	1)	2)	3)
6	PSWは、利用者に対して、自己紹介(名前や業務内容)をしている <input type="checkbox"/> 利用者に対して、自己紹介を行っている <input type="checkbox"/> 利用者に対して、PSWの業務を分かりやすく説明している	左の一部を行う	特にしていない
7	PSWは、利用者に対して事務的な対応はせずに、じっくり話を聴いている <input type="checkbox"/> 傾聴、受容、共感を行っている <input type="checkbox"/> 話をじっくり聴ける時間の余裕、心の余裕がある(担当人数/PSWの配置状況) <input type="checkbox"/> 相談を受けることが、PSWの重要な業務として位置づけられている <input type="checkbox"/> 相談を受ける時間が、PSWのスケジュールの中で位置づけられている <input type="checkbox"/> 相談を受けることができない時は、利用者に理由などを説明し、了解を得ている	左の一部を行う	特にしていない
8	PSWは、利用者が話しかけやすい雰囲気作りをしている <input type="checkbox"/> 利用者には笑顔で接している <input type="checkbox"/> PSWから声をかけている	左の一部を行う	特にしていない
【プライバシーの尊重】			
9	プライバシーが守られる相談室、もしくは面接室が確保されている <input type="checkbox"/> プライバシーが守られる個室が確保されている		確保されていない
【自己実現の尊重】			
10	PSWは、利用者の気持ちに寄り添い、利用者の意思、利用者の決定を尊重している <input type="checkbox"/> 利用者の気持ちに寄り添い、傾聴、受容、共感を行っている <input type="checkbox"/> 利用者の自己決定を可能な限り尊重し、主治医や病院の意向などが最優先されない	左の一部を行う	特にしていない

11	PSWIは、利用者の問題解決の方法を押し付けていない	1) <input type="checkbox"/> 可能な限りの選択肢を考えている <input type="checkbox"/> 利用者と共に問題解決の方法を検討し、利用者の決定を待つ/引き出す <input type="checkbox"/> 利用者の問題解決の方法を押し付けていないかなど、自分の実践を常に振り返り、より良い実践を行うように努力している	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
【誠実な対応】				
12	PSWIは、利用者に対し、「できること」と「できないこと」を明らかにしている	1) <input type="checkbox"/> なるべく、利用者ができるような工夫を行い、利用者ができることまで行わない <input type="checkbox"/> 自分でできることなのか、分からないことについて、簡単に引き受けない <input type="checkbox"/> 依頼されたことについて状況を利用者伝えていく	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
13	PSWIは、相談で依頼されたことについて、必要に応じて状況を利用者伝えていく	1) <input type="checkbox"/> 依頼されたことについて、結果が分かれば、利用者に伝えている	/	3) 特にしていない
14	PSWIは、相談過程で依頼されたことについて、結果が分かれば、利用者に伝えている	1) <input type="checkbox"/> 依頼されたことについて、結果が分かれば、利用者に伝えている	/	3) 特にしていない
15	PSWIは、常に前向きに考え、あきらめずにできることを行っている	1) <input type="checkbox"/> 問題を解決できる方法がないか、なるべく多くの情報収集を行い、柔軟に考え、それに基づいて、実際に行動する <input type="checkbox"/> 適切な資源を探し、適切な社会資源がない場合は、開発を試みている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
16	PSWIは、利用者の力を信じ、なるべく自分でできるように支援を行っている	1) <input type="checkbox"/> 利用者の力を信じ、まず、利用者が行えないかを考え、利用者ができるように方策を考えている <input type="checkbox"/> 利用者のもつ力(ストレングス)に焦点をあて、その部分を引き伸ばしている <input type="checkbox"/> 自分の実践を振り返り、利用者の力を奪っている点があれば、改善している	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない

C. ケアの質に関する指標

【情報の提供】

	1)	2)	3)	特にしていない	
17	PSWIは、社会資源についての情報をどの利用者に対しても適切に行っている	<input type="checkbox"/> 最新の社会資源について熟知し、資料を整理している <input type="checkbox"/> ニーズのある人には、それを満たす社会資源を必ず伝えている <input type="checkbox"/> 利用者に社会資源の情報をわかりやすく知らせている <input type="checkbox"/> 社会資源等の情報について、院内掲示板、パンフレット等で分かりやすく知らせている	左の一部を行う		

【利用者のケア計画への参加】

18	PSWIは、利用者の意思を第一にしてケア計画を立てている	<input type="checkbox"/> 利用者が、ケア計画作りに参加している <input type="checkbox"/> 利用者の思いや希望を尊重している <input type="checkbox"/> 自分の経験や価値観に捉われていない	左の一部を行う		特にしていない
19	PSWIは、利用者の承諾を得た上で、支援者にケア計画作りに参加するように促している	<input type="checkbox"/> 支援者にもケア計画作りに参加してもらうことを原則としている <input type="checkbox"/> どの支援者に参加してもらうかを、利用者と共に考えている	左の一部を行う		特にしていない

【適切な介入】

20	PSWIは、適切な時期に関わりを始めている	<input type="checkbox"/> 利用者からPSWIに相談の申し込みがあった時には必ず介入している <input type="checkbox"/> 医師や看護師などの病院職員からPSWIに紹介・依頼があった時には、必ず介入している <input type="checkbox"/> 利用者と医師や看護師などとの治療関係が損なわれている時は、介入している	左の一部を行う		特にしていない
----	-----------------------	---	---------	--	---------

21	PSWIは、ニーズに合わせてケースワーク、グループワークなどの技術を活かしている	<input type="checkbox"/> 1) 利用者のニーズを把握している <input type="checkbox"/> ニーズに合わせて、ソーシャルワークの各技術を使っている <input type="checkbox"/> デイケアなどのグループワークにおいて、定期的に援助評価アンケート等を行い、その結果を実践に活かしている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
22	PSW は、潜在的なニーズを把握し、利用者の希望、意欲を引き出す関わりをおこなっている	<input type="checkbox"/> 1) 入院者が話しかけてくるのを待つのではなく、自分から積極的に入院者に話しかけている <input type="checkbox"/> 病棟に一日一度は行き、入院者と話せる機会を作っている <input type="checkbox"/> 毎週、入院者と過ごす機会を作っている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
D. 他職種との連携に関する指標				
【チームワーク】				
23	PSWが、申し送りや院内ミーティングなどに参加している	<input type="checkbox"/> 1) 病棟等の申し送りに参加している <input type="checkbox"/> 各職種の代表者によるミーティングに参加している	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
24	PSWIは、精神科医、看護師などの各職種と対等に専門的立場で意見交換している	<input type="checkbox"/> 1) PSWIは、利用者の生活支援に関して、専門的な立場と視点から、意見を述べている	3) 特にしていない	
25	PSWの意見は、精神科医、看護師などの各職種の意見と対等に尊重されている	<input type="checkbox"/> 1) カンファレンスなどにおいて、利用者の生活支援に関するPSWの意見が、専門家の意見として対等に尊重されている <input type="checkbox"/> 各職種の代表者によるミーティングなどで、PSWの意見が、対等に尊重されている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
26	精神科医、看護師などの病院職員からPSWIに対して援助の依頼がある	<input type="checkbox"/> 1) 医師、看護師などの病院職員は、初めて病院に来た利用者に対し、生活支援を行う専門家としてPSWがいることを伝えている <input type="checkbox"/> 医師、看護師などの病院職員からPSWIに利用者の紹介がある	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
27	各職種は、利用者のニーズに合わせて協力して関わっている	<input type="checkbox"/> 1) PSWが、利用者の生活支援を行う際に、各職種はPSWIに協力している	3) 特にしていない	

28	PSWは、職場の関係者などに理解してもらえらるるよう努力している	1) <input type="checkbox"/> 申し送り、会議、カンファレンスなどで、利用者への関わりについて、報告、発言することにより、PSWの業務、価値などを伝えている	3)	特にしていない
29	PSWが地域で仕事をすることなどを、各職種は理解している	1) <input type="checkbox"/> 当事者活動や家族会活動への参加や支援、社会資源の開発など、院外での活動も業務として認められている	3)	認められていない
E. 病院内のシステムに関する指標				
【担当業務】				
30	PSW業務は、利用者への関わりを基本とする相談業務中心である	1) <input type="checkbox"/> 相談援助業務を中心に PSW業務を遂行できる病院の体制がある	3)	体制はない
31	精神科医、看護師などの病院職員が、PSWに対して援助を依頼しやすいシステムがある	1) <input type="checkbox"/> PSWが申し送りや院内ミーティングに参加できるシステムがある <input type="checkbox"/> 精神科医、看護師などが、PSWに対して支援の依頼をしやすいシステムがある(依頼の書類があるなど)	3)	特にない
32	退院の際には必ずPSWが、利用者に関わる体勢がある	1) <input type="checkbox"/> 利用者の退院の際には、精神科医、看護師などから事前にPSWに連絡があり、必要に応じて利用者と面接できる <input type="checkbox"/> 退院後の支援計画をたてるケース会議等に、PSWが参加できるシステムがある	3)	特にしていない
33	利用者からの意見等に対して、PSWが、検討・解決に関わるシステムがある	1) <input type="checkbox"/> 利用者からの意見等を聞けるシステムがある(意見箱の設置や話し合いの場の設定など) <input type="checkbox"/> 利用者からの意見が公開されている(回覧、掲示など) <input type="checkbox"/> 利用者からの意見に関して検討会議が開かれている <input type="checkbox"/> 利用者からの意見に関する検討会議にPSWが出席している	3)	特にしていない
【病院内での活動等】				
34	PSWが利用者のニーズに合わせて、例えば緊急時に訪問等ができる体制がある	1) <input type="checkbox"/> PSWが複数配置されている <input type="checkbox"/> 訪問等についてはPSWの判断が尊重される <input type="checkbox"/> PSWが訪問等に使える公用車がある	3)	特にしていない

35	PSWが地域での当事者活動、地域家族会などに関わる ことができる体制がある	1) <input type="checkbox"/> 当事者活動、地域家族会への支援に関して、PSWの判断が尊重されるシステムがある <input type="checkbox"/> 当事者活動、地域家族会との連携業務の担当者を決めている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
36	PSWが精神障害者、精神障害に関する理解を広げる活動を行える体制がある	1) <input type="checkbox"/> 院内広報誌の発行にPSWが関わる体制がある <input type="checkbox"/> 広報誌等を利用者、家族、地域住民、ボランティア、関係機関等に広く配布できる体制がある <input type="checkbox"/> 利用者と地域住民が共に交流できる行事等に PSWが積極的に関わる ことができる体制がある <input type="checkbox"/> 地域の諸機関などが、PSWに研修会、講演会等の講師を依頼した場 合に、協力できる体制がある	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
37	全国レベルの学会、全国大会、研修等に参加できる体制がある	1) <input type="checkbox"/> 全国レベルの学会、全国大会、研修等に業務の一環としての参加できる体制がある <input type="checkbox"/> 研究発表をしやすい体制がある(準備が、業務として認められるなど)	2) 左の一部がある	3) 特にない
F. 病院と地域をつなぐ視点に関する指標				
【地域との関わり】				
38	PSWは、社会資源を開拓する 努力をしている	1) <input type="checkbox"/> ニーズを充足させる社会資源が無い場合は、新しい社会資源の開拓に 努力している	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
39	PSWは、地域の当事者会や 家族会と積極的にかかわりを 持っている	1) <input type="checkbox"/> 地域の当事者会や家族会に定期的に参加し、協力している <input type="checkbox"/> 地域の当事者会や家族会の担当者を決めている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
G. 社会への働きかけについての指標				
【社会への働きかけ】				

40	PSWは、あらゆる機会を通じて精神障害などに関する啓発活動を心がけている	1) <input type="checkbox"/> 院内広報誌の発行に関わっている <input type="checkbox"/> 広報誌等を利用者、家族、地域住民、ボランティア、関係機関等に広く配布している <input type="checkbox"/> 利用者が地域の人たちと交流できる行事等に積極的に関わっている <input type="checkbox"/> 啓発活動を行っている(講演会などの企画・実施など) <input type="checkbox"/> 他の機関などが行う活動に協力している(研修会、講演会の講師など)	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
----	--------------------------------------	--	------------	------------

H. PSWの教育に関する指標

【専門性の向上】

41	PSWが、日本精神保健福祉士協会に所属している	1) <input type="checkbox"/> PSWの半数以上が個人で日本精神保健福祉士協会に所属している <input type="checkbox"/> 病院が団体として日本精神保健福祉士協会に所属している	2) 左の一部を満たしている	3) いずれの形でも所属していない
42	定期的にPSW部門で会議等を実施し、情報の共有に努めている	1) <input type="checkbox"/> PSW部門の会議を週1回は行っている <input type="checkbox"/> 会議では、PSW全員が率直に意見交換できる雰囲気を作っている <input type="checkbox"/> PSW部門の会議での決定事項などで、他職種に伝える必要がある情報は、きちんと各部署に伝えている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
43	新人のPSWのための研修体制を整えている	1) <input type="checkbox"/> 新人PSWへの基本的な研修プログラムを作成している <input type="checkbox"/> 精神科医、看護師などの病院の各職種が、新人PSWの研修に協力する体制がある <input type="checkbox"/> 研修は、入職時のみでなく、適時、行うことが可能である	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
44	PSWの実習生を積極的に受け入れている	1) <input type="checkbox"/> PSWの実習生をできるだけ受け入れられている <input type="checkbox"/> 利用者に対して、実習生の受け入れに関して説明し、同意を得ている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない

I. 成果に関する指標

【支援の成果】

45	支援に関する成果	1) <input type="checkbox"/> PSWは援助の過程、及び援助が終結する時点で利用者とともに援助経過の振り返り等を行っている <input type="checkbox"/> 成果を、援助に活かしている	2) 左の一部を行う	3) 特にしていない
----	----------	---	------------	------------

【自由記載】

PSW機能評価やPSWのあり方に関するご意見などありましたら、ご記入ください。

精神科ソーシャルワーカー(PSW)機能評価基準の考え方

A. 適切なケアの提供に関する指標

項目 1:PSW の部屋は、事務部門とは別になっている

- ・ PSW の本来の業務は、相談・支援である。そのため、病院の事務部門(会計、庶務、受付など)に所属するのではなく、また、事務部門とは異なる部屋で、業務を行う必要がある。

項目 5:PSW は、入院者に自分が何をやる人であることを伝えている

- ・ PSW は、病院職員の中で唯一の福祉職である。医師、看護師などの病院職員の指示により業務を遂行するわけではない。
- ・ PSW は、精神保健福祉士の倫理綱領に則って、利用者の立場に立って業務を行うことが重要である。

B. 利用者の権利を守ることにに関する指標

項目 6:PSW は、利用者に対して、自己紹介(名前や業務内容)をしている

- ・ PSW の業務内容が、利用者に理解されているとは限らない。PSW の業務について最初に分かりやすく説明することが重要である。

項目 11:PSW は、利用者に問題解決の方法を押し付けていない

- ・ 利用者の自己決定を支えるには、利用者と共に問題解決の方法を検討していく過程が非常に重要である。

項目 12:PSW は、利用者に対し、「できること」と「できないこと」を明らかにしている

- ・ PSW は、利用者が自分で問題を解決していけるように支援していくのであり、利用者ができることまで行っては、利用者の力を奪うことにもなる。
- ・ PSW が、利用者のニーズに対してすべて対応できるわけではない。ニーズに合わせて適切に社会資源を活用することが重要である。

項目 15:PSW は、常に前向きに考え、あきらめずにできることを行っている

- ・ 利用者のニーズを満たし、利用者の希望を実現するためには、既にある精神保健福祉サービスはもちろんのこと、精神保健福祉以外のサービスをできるだけ活かすことが重要である。
- ・ 適切な社会資源がない場合は、PSW が開拓していく必要がある。精神保健福祉サービスは、未整備ではあるが、社会資源がないと諦めるのではなく、常に前向きに、そして柔軟に考えて最善を尽くすことが重要である。

項目 17:PSW は、社会資源についての情報をどの利用者に対しても適切に行っている

- ・ PSW が幅広く最新の社会資源を熟知しておくことは、利用者の利益のために不可欠である。

C. ケアの質に関する指標

項目 20:PSW は、適切な時期に関わりを始めている

- ・ 「適切な時期」とは、例えば、①利用者がPSWに相談を申し込んだ時、②医師、看護師などの病院職員がニーズを把握しPSWに紹介・依頼があり、利用者が介入を希望した時、③PSWが、ニーズを把握し、利用者が介入を希望した時である。

項目 21: PSW は、ニーズに合わせてケースワーク、グループワークなどの技術を活かしている

- ・ PSW は、利用者への個別援助、集団援助だけでなく、社会資源の開発における地域援助技術など、様々な技術を活かすことが重要である。

E. 病院内のシステムに関する指標

項目 30: PSW 業務は、利用者への関わりを基本とする相談援助業務中心である

- ・ 相談援助業務は、PSW 業務の中心であり、事務手続き等より優先して遂行するべきであり、それを可能にするシステムが病院にあることが、重要である。

項目 31: 精神科医、看護師などの病院職員が、PSW に対して援助を依頼しやすいシステムがある

- ・ PSW の役割を周知するために、日頃から申し送りや院内ミーティングに参加することが必要である。
- ・ PSWに援助を依頼しやすいように、依頼内容などを記入する書式を整備しておく必要がある。

項目 32: 退院の際には必ず PSW が、利用者に関われる体制がある

- ・ PSW の重要な業務のひとつである地域生活支援は利用者が入院している時から始まる。生活上の相談に対応するには信頼関係が重要であり、そのためには入院中のみならず退院時に利用者に関わり、援助関係を確立しておく必要がある。

項目 33: 利用者からの意見等に対して、PSW が、検討・解決に関われるシステムがある

- ・ 利用者の人権の保障、治療環境の質の向上等のためには、利用者の率直な意見を把握し、それを活かすことが必要である。
- ・ 利用者の意見等に対する検討会議において、PSW は福祉専門職として利用者や家族の立場に立って発言をすることが重要である。

項目 34: PSW が利用者のニーズに合わせて、例えば緊急時に訪問等できるシステムがある

- ・ 地域で生活する利用者は、些細なことから引き起こされるストレスで症状が悪化することがある一方で、少しの支えで危機を乗り越えることができることがある。
- ・ 精神障害者の地域生活を支えるためには、利用者のニーズに合わせて迅速に訪問等を行うことが必要であり、それを可能にする病院のシステムが重要である。

項目 35: PSW が地域での当事者活動、地域家族会などに関わることができるシステムがある

- ・ 当事者活動、地域家族会活動等への支援は、PSW の重要な業務の一つである。いつ、どのような方法で支援するかなどについて、病院が PSW の裁量権を認めていると柔軟に支援を提供しやすい。
- ・ 連携業務の担当者を決めておくことは、利用者や家族に対する責任性、継続性の点から必要である。

項目 36: PSW が精神障害者、精神障害に関する理解を広げる活動を行えるシステムがある

- ・ 社会には、精神障害者への根強い偏見、差別があり、利用者が、自分らしく地域で生活することを阻んでいる。そこで、PSW は、積極的に啓発活動を行う必要がある。業務として啓発活動に携わることができるシステムがあると、PSW は、啓発活動に取り組みやすくなる。

項目 37: 全国レベルの学会、全国大会、研修等に、業務として参加できるシステムがある

- ・ 全国レベルの学会、研修会等への参加が、業務として認められると、PSW は、学会や研修に参加して、最新の情報や知識を得たり、技術をのぼしたりする機会を持ちやすくなる。
- ・ PSW は、研修やスーパービジョンを通して、常に専門性の向上に努めなければならない。全国レベルの学会、研修会等への参加、研究発表は、PSW としての自分の実践を振り返り、自分の実践の質を向上させる最も重要な機会となる。

F. 病院と地域をつなぐ視点に関する指標

項目 38: PSW は、社会資源を開拓する努力をしている

- ・ 精神障害者が利用できる社会資源は不十分な状況であり、利用者のニーズに合う社会資源の開拓は PSW の重要な業務である。

項目 39: PSW は、地域の当事者会や家族会と積極的にかかわりを持っている

- ・ 当事者会や家族会は、貴重なピアサポートの場である。PSW は、地域の当事者会や家族会と信頼関係を築くことが重要であり、必要時には、主体性を尊重しつつ支援していくことが重要である。
- ・ 業務の担当者を決めておくことは、利用者や家族に対する責任性、継続性の点から必要である。

H. PSW の教育に関する指標

項目 43: 新人の PSW のための研修体制を整えている

- * ここでいう「新人」は、日本精神保健福祉士協会の規定に準じて、「職務経験3年未満の者」を指している。

項目 44: PSW の実習生を積極的に受け入れている

- ・ 病院は、専門職者を育てる教育の場所でもある。特に閉鎖的になりがちである精神科の病院にとり、実習生を受け入れ、病院に外部の目、外の風を入れることは重要である。なお、実習生の指導を通して、PSW が、自分の実践、PSW のあり方、精神医療のあり方などを振り返る良い機会となる。

I. 成果に関する指標

項目 45: 支援に関する成果

- ・ ケースワークやグループワークにおいて、再アセスメントを実施することで、PSW 自身の援助の成果を把握し、今後の援助に活かすことが必要である。

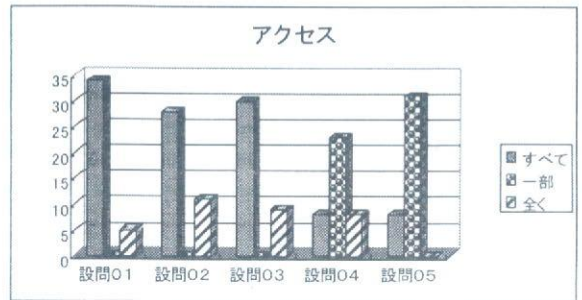
資料3 精神科ソーシャルワーカーの機能評価調査結果

設問別データ表

設問	すべて	一部	全く	設問	すべて	一部	全く	設問	すべて	一部	全く
設問01	33	0	0	設問16	21	18	0	設問31	18	19	2
設問02	28	11	0	設問17	11	28	0	設問32	17	19	3
設問03	30	9	0	設問18	9	29	1	設問33	10	22	7
設問04	8	23	6	設問19	8	27	4	設問34	22	16	1
設問05	8	31	0	設問20	14	25	0	設問35	18	9	12
設問06	27	12	0	設問21	7	31	1	設問36	6	29	4
設問07	12	27	0	設問22	8	28	3	設問37	21	13	5
設問08	29	9	1	設問23	20	18	1	設問38	19	1	28
設問09	32	7	0	設問24	39	0	0	設問39	10	14	18
設問10	26	13	0	設問25	31	8	0	設問40	2	32	3
設問11	25	14	0	設問26	19	20	0	設問41	1	25	12
設問12	32	7	0	設問27	39	0	0	設問42	12	19	7
設問13	39	0	0	設問28	36	3	0	設問43	8	17	19
設問14	39	0	0	設問29	25	4	0	設問44	20	9	9
設問15	15	24	0	設問30	37	2	0	設問45	12	22	6

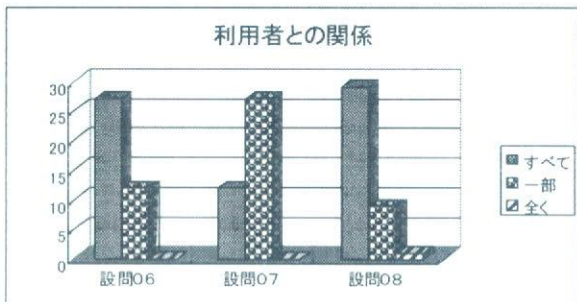
1

A) 適切なケアの提供に関する分野



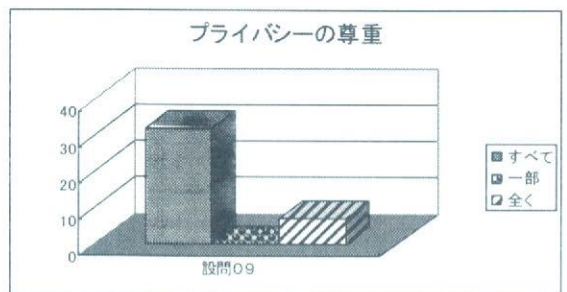
2

B) 利用者の権利を守ることにに関する分野



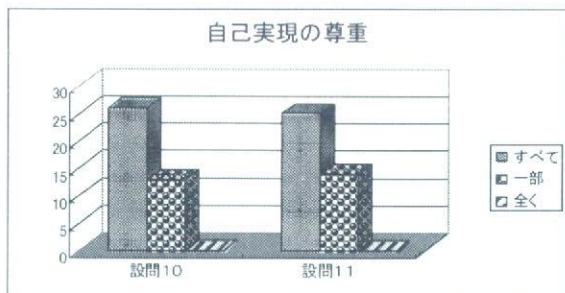
3

B) 利用者の権利を守ることにに関する分野



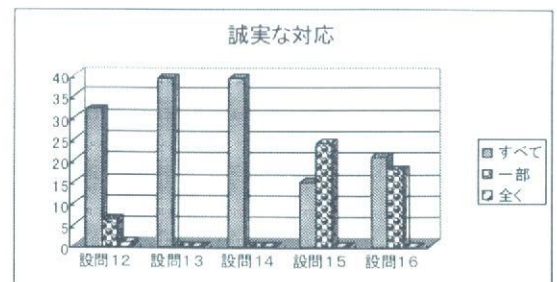
4

B) 利用者の権利を守ることにに関する分野



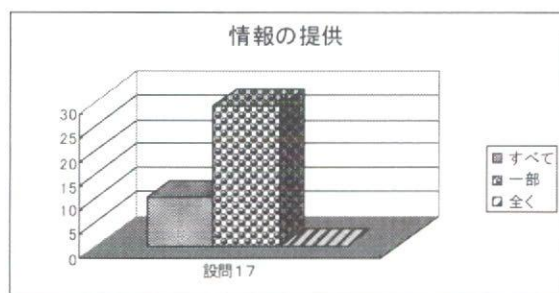
5

B) 利用者の権利を守ることにに関する分野



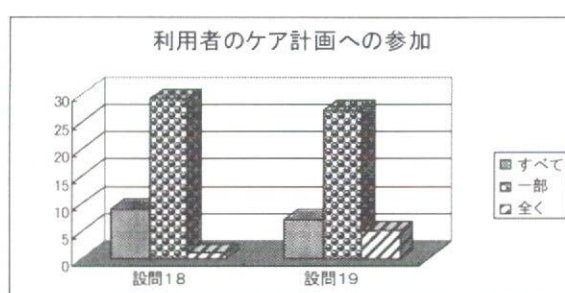
6

C) ケアの質に関する分野



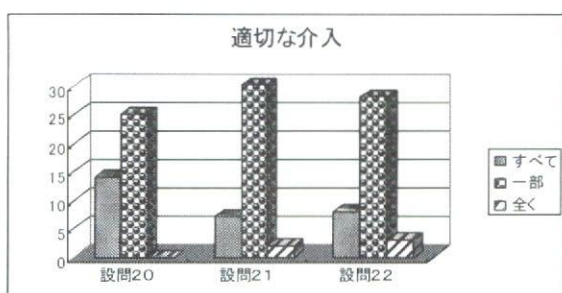
7

C) ケアの質に関する分野



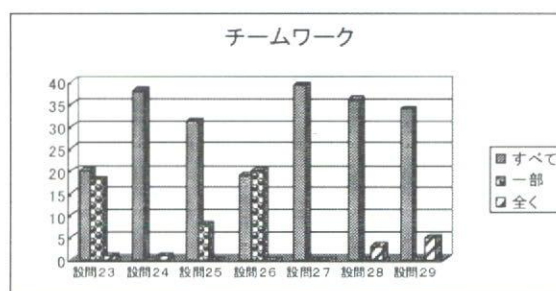
8

C) ケアの質に関する分野



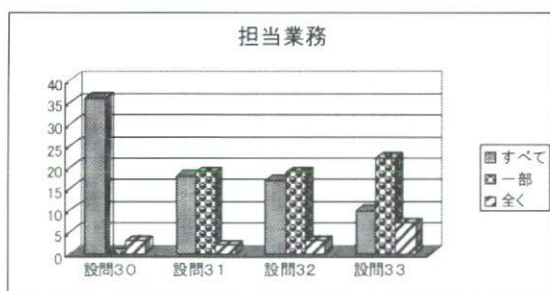
9

D) 他職種との連携に関する分野



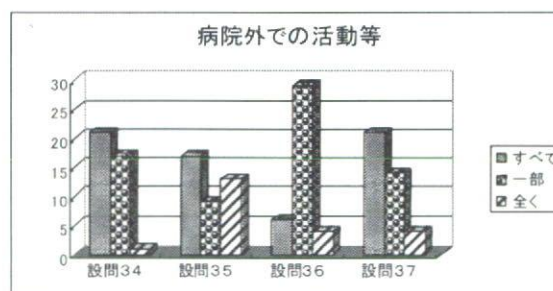
10

E) 病院内のシステムに関する分野



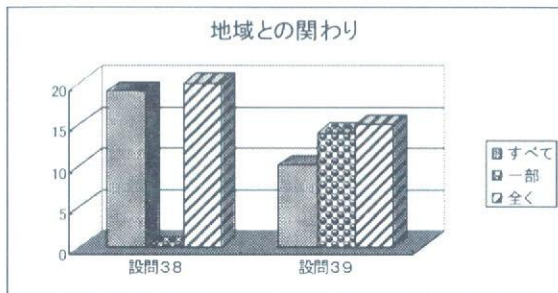
11

E) 病院内のシステムに関する分野



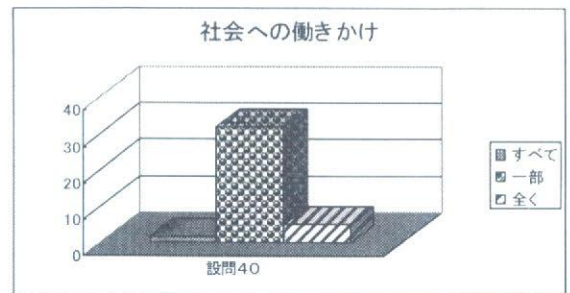
12

F) 病院と地域をつなぐ視点に関する分野



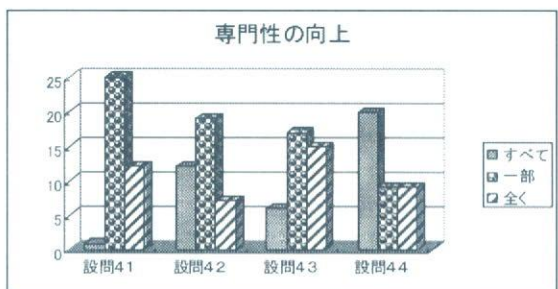
13

G) 社会への働きかけについての分野



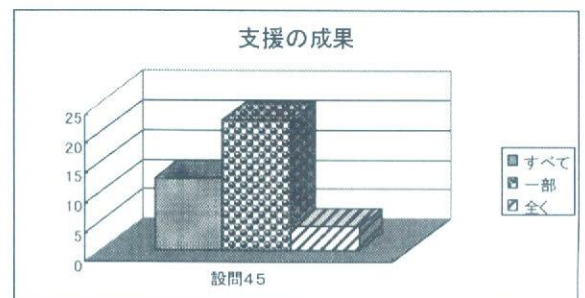
14

H) PSWの教育に関する分野



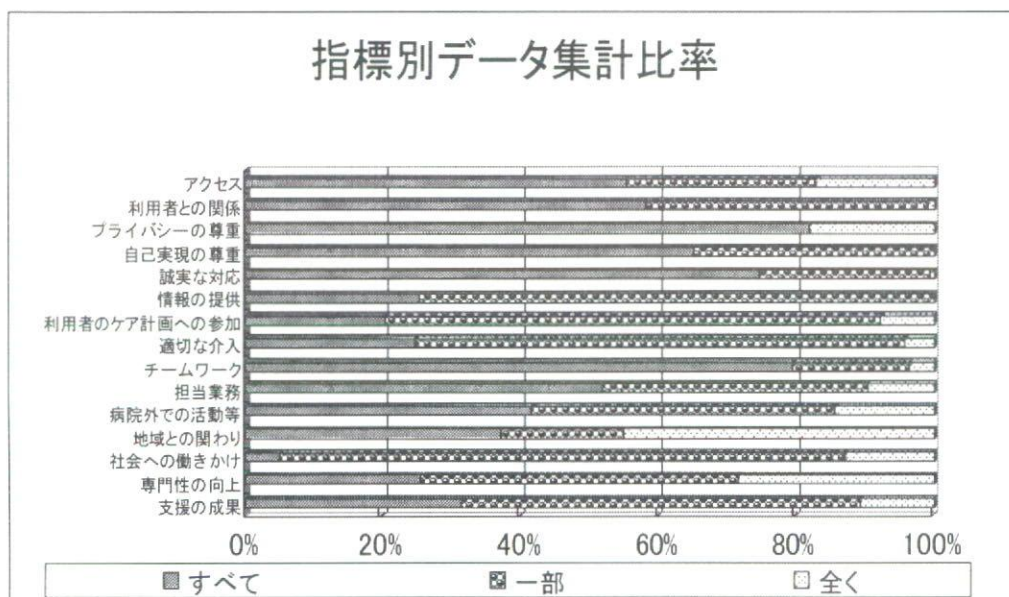
15

I) 成果に関する分野



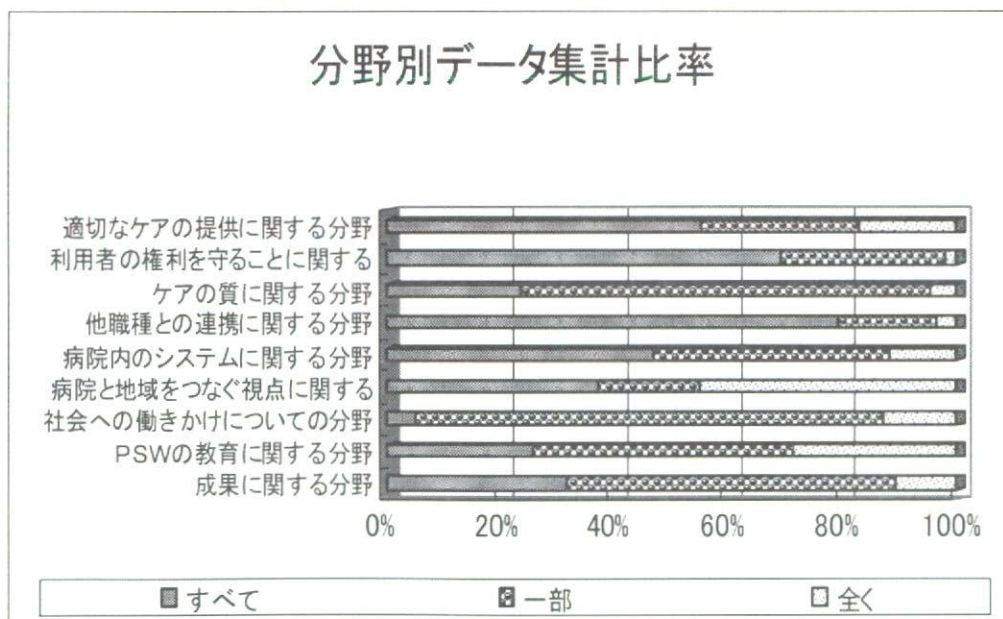
16

指標別回答の集計比率



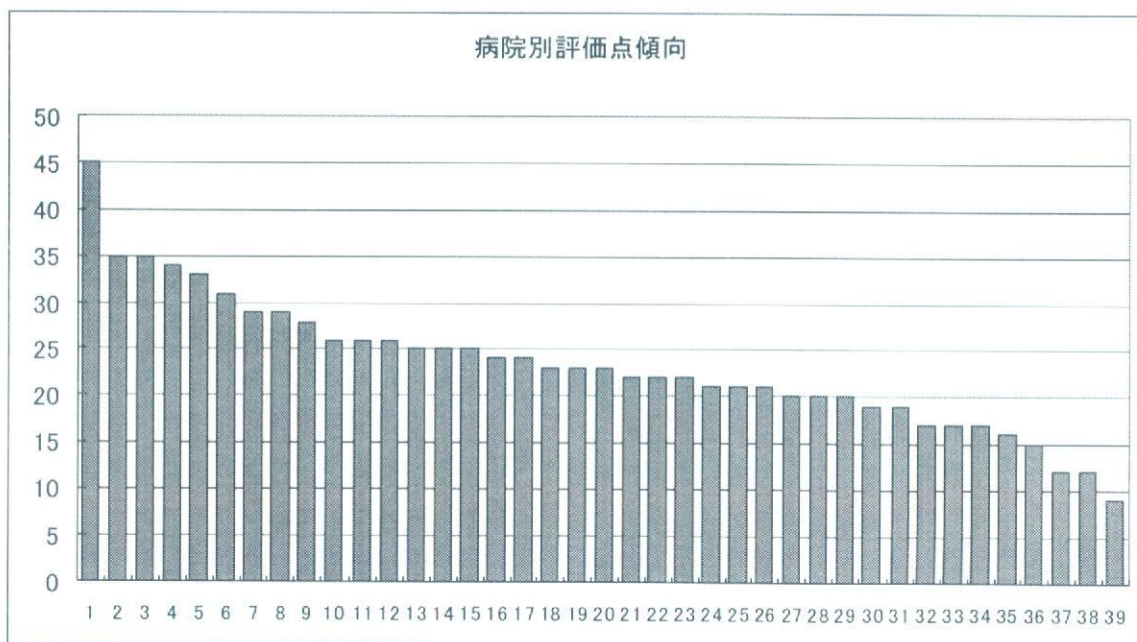
17

分野別回答の集計比率



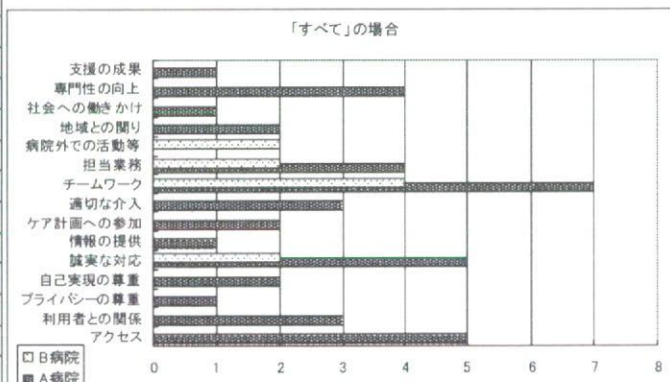
18

病院別の評価点傾向 (すべて：2点、一部：1点とした場合)



指標別に見た評価の違いによる特徴 「すべて」を選択した場合の比較

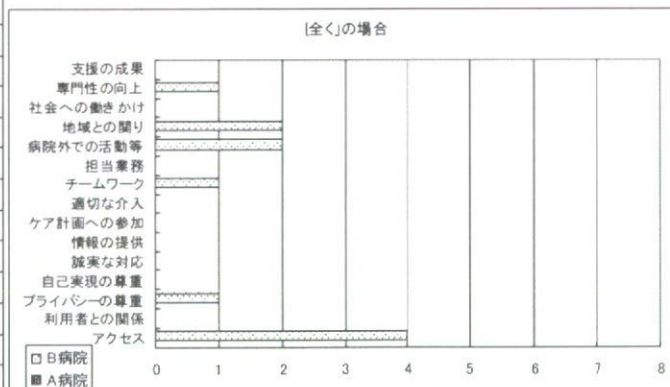
すべて	A病院	B病院
アクセス	5	0
利用者との関係	3	0
プライバシーの尊重	1	0
自己実現の尊重	2	0
誠実な対応	5	2
情報の提供	1	0
ケア計画への参加	2	0
適切な介入	3	0
チームワーク	7	4
担当業務	4	2
病院外での活動等	0	2
地域との関わり	2	0
社会への働きかけ	1	0
専門性の向上	4	0
支援の成果	1	0



20

指標別に見た評価の違いによる特徴 「全く」を選択した場合の比較

全く	A病院	B病院
アクセス	0	4
利用者との関係	0	0
プライバシーの尊重	0	1
自己実現の尊重	0	0
誠実な対応	0	0
情報の提供	0	0
ケア計画への参加	0	0
適切な介入	0	0
チームワーク	0	1
担当業務	0	0
病院外での活動等	0	2
地域との関わり	0	2
社会への働きかけ	0	0
専門性の向上	0	1
支援の成果	0	0



21

平成 19 年度厚生労働科学研究補助金（こころの健康科学研究事業）
精神医療に係る患者の利用実態や機能等の評価及びその結果の公表に関する研究
分担研究報告書

精神科病院機能の評価軸に関する研究
-精神科看護機能評価票の作成-

分担研究者	吉住 昭	(独立行政法人国立病院機構花巻病院)
研究協力者	平 直子	(西南学院大学)
	小山 宏子	(筑紫女学園大学)
	廣田 悦子	(第一福祉大学)
	平野 互	(大分県立看護科学大学)
	大賀 淳子	(大分県立看護科学大学) *執筆担当者
	櫻井 斉司	(医療法人聖ルチア会聖ルチア病院)
	高橋 克朗	(長崎県立精神医療センター)
	瀬戸 秀文	(長崎県立精神医療センター)
	鶴丸 藍子	(肥前精神医療センター)
	稲垣 中	(慶應義塾大学大学院)
	佐渡 充洋	(慶應義塾大学医学部)
	中川 敦夫	(慶應義塾大学大学院)

研究要旨

入院患者を 24 時間支える看護の質を適切に評価し、その結果に基づいて看護サービスを向上させていくことは、病院全体の患者サービス向上に大きく貢献すると思われる。本研究は、精神科看護の質を適切に評価しうるツールの開発を目指している。初年度の文献レビューで、我が国における精神科看護に関する既存の評価尺度は複数存在するが、標準化されたものはないことを確認し、2 年目は既存の評価尺度の改変による評価票の試作に取り組んだ。評価票の試作にあたっては、精神科看護に関わる多様な人々（患者、家族、看護師、他職種）へのインタビューを行い、これらの人々の声を反映させることに留意した。インタビュー結果にもとづき、研究担当・協力者および精神科病院看護管理者のディスカッションを行って、7 領域 53 項目からなる評価票を試作した。

今年度は、試作した評価票の適切性を問う質問紙調査を国公立精神科病院看護部長に対して実施し、評価票に修正を加えて、7 領域 49 項目からなる評価票を作成した。さらに、修正した評価票を用いて国公立精神科病院精神科看護機能を自己評価してもらった。その結果、評価票の 7 領域のうち、「地域サービス」に関する自己評価点が他の全ての領域と比べて優位に低かった。しかし、自己評価結果とアウトカム指標との関連はなかったことから、本評価票にはさらなる改善が必要である。

A. 研究目的

初年度（平成 17 年度）の文献レビュー、研究者間でのディスカッション¹⁾に基づいて、2 年目（平成 18 年度）は評価票を試作した²⁾（表 1）（以下、評価票（試作版）とする）。本年度は、試作した評価票の適切性を判断し、評価票の修正を行うこと、さらには修正した評価票を用いてわが国の国公立精神科病院の看護機能を評価し、その評価結果が看護の質や結果を反映しているかどうかを明らかにすることを目的として研究に取り組んだ。

B. 研究方法

本年度の研究は、以下の 3 段階からなる。

1) 調査 1「評価票（試作版）に関する質問紙調査」

(1) 目的

精神科看護機能評価尺度としての評価票（試作版）の適切性を明らかにする。

(2) 対象と方法

全国国公立精神科病院の看護部長 55 名への郵送による無記名自記式質問紙調査。

(3) 調査内容

評価票（試作版）の各項目について、その適切性を 4 段階（適切、やや適切、やや不適切、不適切）で尋ねた。さらに、追加すべき項目や修正意見を自由に記載してもらった。

2) 調査 1 の結果に基づく評価票（試作版）の修正

研究分担者、協力者が、調査 1「評価票（試作版）に関する質問紙調査」の結果に基づき数回のディスカッションを行い、評価票（試作版）の修正を行った。

3) 調査 2「評価票（修正版）を用いた精神科看護機能評価」

(1) 目的

評価票（修正版）を用いた自己評価により国公立精神科病院における精神科看護機能の実態を明らかにする。また、本評価票で得られた結果が当該施設の看護の質や結果を反映しているかどうかを明らかにする。

(2) 対象と方法

全国国公立精神科病院の看護部長 55 名への郵送による無記名自記式質問紙調査。

(3) 調査内容

評価票（修正版）の各項目について、4 段階（十分にできている、ほぼできている、あまりできていない、不十分である）で自己評価を行ってもらった。さらに、病院規模（病床数、看護職員数の 2 項目）とアウトカム指標（ベッド稼働率、平均在院日数、インシデントレポート数および看護職員離職率の 4 項目）について尋ねた。アウトカム指標の設定にあたっては、研究分担者、協力者が、看護の質や結果を反映していると思われる項目を選択した。

C. 研究結果

1) 調査 1「評価票（試作版）に関する質問紙調査」

回収数は 34、回収率は 62.9%であった。設問別平均点は最高 3.94 点、最低 3.41 点であった（表 3）。地域サービスに関する設問は 3 項目とも平均点が低かった。回答者の 3/4（34 人中 32 人）が平均点 3.2 以上であり（表 4）、本評価項目の適切性を認めていた。自由記載による意見は述べ 34 個あり、文章表現の修正意見のほか、「精神科看護特有の評価項目になっていない」という指摘もあった（3 名）。

2) 調査 1 の結果に基づく評価票（試作版）の修正

調査 1 の結果に基づき、研究分担者、協